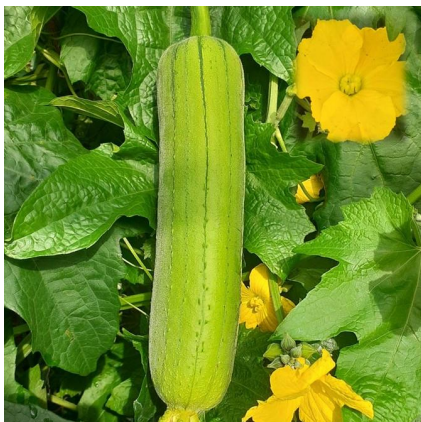
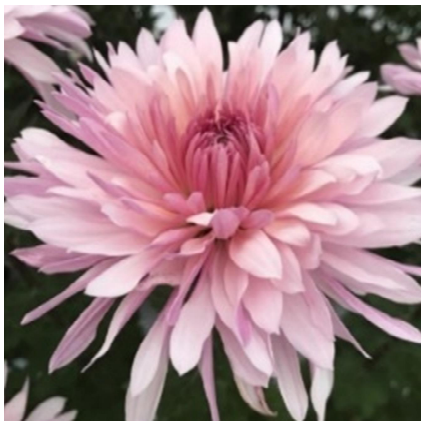


要 覧

沖 縄 県 農 業 研 究 セ ン タ ー

OKINAWA PREFECTURAL AGRICULTURAL RESEARCH CENTER



各種計画の概略図

新・沖縄21世紀ビジョン

基本計画/実施計画

- 沖縄21世紀ビジョンとは、県民が望む将来の沖縄の姿と、その実現に向けた取組の方向性等を明らかにした基本構想です（想定年：2030年）。
- 基本計画は、ビジョンの実現に向けた「基本方向」や「基本施策」等を示しています（計画年度：令和4～13年度）。
- 実施計画は、基本計画で掲げた各施策の具体的な取組を示しています。

新・沖縄21世紀 農林水産振興計画

～まーさん・ぬちぐすいプラン～

- 新・沖縄21世紀農林水産振興計画は、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画において重点産業の一つとして位置づけられている農林水産業について、地域特性を生かした振興を図るため、同計画を補完するアクションプランです（計画年度：令和4～13年度）。
- おきなわブランドづくりの推進、リーディング産業である観光産業等との積極的な連携、6次産業化の推進等のマーケットインを意識した出口産業の強化等を通じ、持続可能な農林水産業の実現を目標としています。

新・沖縄県農林水産試験 基本構想

- 新・沖縄県農林水産試験基本構想は、新・沖縄21世紀農林水産振興計画を実現するための試験研究の指針です（計画年度：令和5～8年度）。
- 農林水産業者が抱える喫緊の課題解決、安定生産および所得向上に繋がる現場重視型の技術開発を推進します。

沖縄県農業研究センターの役割

本県は、我が国唯一の亜熱帯海洋性気候にあるため本土の農林水産技術の直接的導入には一定の限界があることや、本土から遠隔地にあるため地理的不利性があります。

沖縄県農業研究センターは、地域特性を最大限に生かした技術開発により、それら農林水産業の振興上の課題や農業者の経営安定、県民に対する食料の安定供給に寄与する研究に取り組んでいきます。

新・沖縄県農林水産試験基本構想の取組方針

- 沖縄型スマート農林水産技術の開発



ドローンを用いた農薬散布の省力化

- 多様なニーズや気候変動等に対応した品種開発



新規規用途に対応したキクの育種

- 地域特性を最大限に生かした農林水産技術の開発



有機質資材を活用した化学肥料の減肥技術の開発



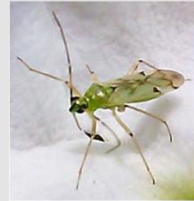
外部遮光装置



外部遮光装置の制御システム(左)と操作画面(右)



高糖度の生食用パイナップル「冲農P19」



天敵利用による病害虫防除技術の開発

沿革

明治14年 (1881)	真和志間切古波蔵村楚辺原に農事試験場を設立。
明治36年 (1903)	楚辺から那覇区字久茂地に移転。真和志村字安里に安里農場を設置。
明治42年 (1909)	県制施工。国費経営の農事試験場を廃止し、地方農事試験場規程に依り県立農事試験場と改称。
明治45年 (1912)	県立糖業試験場本場を中頭郡西原村字我謝に設置し、久茂地の県立農事試験場は那覇支場と改める。(西原村字我謝の糖業改良事務局廃止。試験・施設・圃場を引き継いで県立糖業試験場本場を設置する。久茂地の県立農事試験場は県立糖業試験場那覇支場と改称。)
大正 4年 (1915)	県立糖業試験場名護試験地を国頭郡名護村字東江に設置。
大正 8年 (1919)	県立糖業試験場名護支場を分離し、県立農事試験場として独立分離。農商務省から甘藷の人工交配に依る採種事業の委託を受ける。
大正13年 (1924)	県立農事試験場は国頭郡名護町から中頭郡宜野湾村字普天間に移転。(国頭郡名護町の県立農事試験場を中頭郡宜野湾村字普天間に移転する。)
大正15年 (1926)	島尻郡小禄村字安次嶺に園芸部及び蚕業部を設置。農林省委託甘藷改良増殖試験地新設。
昭和 6年 (1931)	県立糖業試験場と県立農事試験場を合併し、島尻郡真和志村字与儀に県立農事試験場を設置。同時に小禄・西原・普天間の各試験地、国頭支場、宮古苗圃を設置。
昭和20年 (1945)	終戦後、石川市東恩納に農業復興東恩納農園開設。その後東恩納農事試験場と改称。国頭農事試験場を名護町に復活。
昭和22年 (1947)	宮古支庁産業試験場設置。八重山民政府農事試験場を設置。

昭和25年 (1950)	琉球農林省の発足と共に、与儀・名護・東恩納・宮古・八重山を農業研究指導所と改称。
昭和28年 (1953)	農業研究指導所を統合して与儀を中央農業研究指導所とし、他を地方農業研究指導所として名護・コザ・宮古・八重山に置く。
昭和36年 (1961)	行政機構改革により中央農業研究指導所は琉球農業試験場と改称し、各地方の指導所は支場と改称。琉球農業試験場は那覇市与儀から首里崎山町に移転。
昭和47年 (1972)	沖縄県本土復帰に伴い琉球農業試験場は沖縄県農業試験場と改称。組織も本場は企画管理課、庶作室、種芸室、経営室、化学室、病虫室、園芸室(旧コザ支場)、畑作利用室(旧宮古支場)、名護支場は庶務課・研究室、八重山支場は庶務課・研究室、呉我山試験地となり、八重山支場は庶務課・研究室を置く。
昭和50年 (1975)	園芸室は沖縄市(旧コザ市)から具志川市に移転。
昭和54年 (1979)	名護支場は名護市東江から前棚原に移転。
昭和55年 (1980)	宮古支場は平良市下里から西里に移転。
平成17年 (2005)	沖縄県試験研究機関の一元化により、主幹課が農林水産部営農支援課から企画部科学技術振興課となる。
平成18年 (2006)	沖縄県農業試験場は那覇市首里崎山町から糸満市真壁へと移転。「沖縄県農業研究センター」へと改称。うるま市の園芸支場を本所に統合。名護支場を「名護支所」、宮古支場を「宮古島支所」、八重山支場を「石垣支所」へと改称。組織改正に伴い本所は7班、名護支所は3班、宮古島支所は2班、石垣支所は2班へと整備される。
平成22年 (2010)	宮古島支所及び石垣支所で班体制からオールスタッフ制へ変更される。
平成24年 (2012)	組織改編に伴い、主幹課が企画部科学技術振興課から農林水産部農林水産企画課となる。

組織体制



研究企画班

● 企画・調整担当

研究課題の企画、調整、評価や成果の公表、研究予算の調整のほか、研究機器の整備、知的財産の管理、研究員の資質向上等に関する業務を行っています。

● バイオテクノロジー研究担当

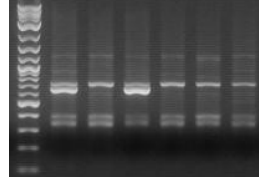
消費者・生産者のニーズに合った新品種を効率的に育成するため、DNA情報の解析やマーカーの開発など、新たな育種システムの開発や種苗増殖技術に関する研究を行っています。



試験成績検討会（外部評価）



パインアップルの組織培養



DNAマーカー開発



沖縄オリジナル品種の効率的な育成

作物班

● サトウキビの育種と栽培技術の開発

省力化・低コスト化により持続的な生産を図るため、株出し性に優れ、機械化適性や多用途利用にも対応した品種育成に関する研究を行っています。また、新たな機械化栽培体系の構築に関する研究や、スマート農業技術に対応した栽培技術の研究を行っています。



ドローンによる
省力化技術の開発



国内随一のサトウキビ交配施設における試験

● カンショの育種と栽培技術の開発

紅イモを中心に、病害に強い多収品種の育成および安定多収栽培技術の開発に関する研究を行っています。



ビレットプランタによる
サトウキビ植え付け試験



沖縄県育成のカンショ品種
「紅つよし®」 「ちゅら恋紅」

野菜花き班

● 野菜の育種と栽培技術の開発

県産野菜の安定生産の促進と県外産地との競争に対応するため、栽培管理技術の改善、省力・低コスト化栽培技術の開発と消費者ニーズに合った品種の育成を行っています。

さらに、沖縄の有利性を発揮する新規品目の導入と栽培技術の開発に関する研究に取り組んでいます。



アバシ系ゴーヤー
「沖農G7」



加熱調理後も褐変しない
ヘチマ「美らへちま®」(右)



トルコギキョウ品種選定
および栽培技術の開発

● 花きの育種と栽培技術の開発

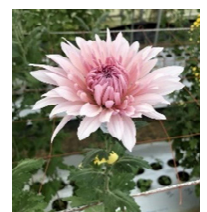
市場ニーズへの対応と省力化に向けたキク類の品種育成および沖縄の有利性を発揮する新規品目の導入と栽培技術の開発に関する研究に取り組んでいます。



沖縄県育成の輪ギク品種
「首里の加那」



「首里の令黄」



秋スプレーギク品種
「シュリカナサ」

農業システム開発班

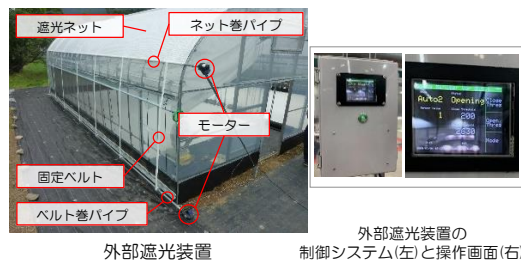
● 流通・加工分野：農産物の食品素材としての特性や貯蔵特性、加工適性の解明、未・低利用資源や規格外品および有用物質や機能性を生かした利用加工技術の開発に関する研究を行っています。

● 農業機械・施設分野：本県に適した栽培施設や生産性向上を図るための環境制御システムの開発、様々な土壌条件や栽培規模に対応した農業機械の開発に関する研究を行っています。

● 農業経営分野：市場動向や消費者ニーズに対応した農業生産に関する研究、生産性や収益性の向上を図るための経営技術の開発に関する研究を行っています。



パイナップル「沖農P19」の温度別貯蔵試験（貯蔵後の冠芽の状態）



外部遮光装置

外部遮光装置の制御システム(左)と操作画面(右)

土壌環境班

● 亜熱帯土壌の生産性向上と環境負荷の低減

粘土含量が多く有機物が少ない亜熱帯土壌の生産性向上と環境負荷低減の両立に向けて、土壌調査、有機資源の活用、排水性改善、炭素貯留、窒素負荷低減等の土壌改良技術の開発を行っています。

● 施肥基準の設定、有機質資材の施肥技術の開発

環境に配慮し効率的・効果的な施肥管理を行い安定生産を図るため、作物の養分吸収パターンに沿った施肥基準の設定や有機質資材を活用した持続可能な施肥技術の確立を目指します。また、生理障害による要素欠乏等の原因究明と対策技術の確立に取り組んでいます。



本県の主要土壌の断面
(左から：国頭マージ、島尻マージ、ジャークガル)



水耕栽培による要素欠乏
・過剰症の症例再現

有機質資材を活用した
栽培試験

病虫管理技術開発班

● 作物病害虫の防除技術の開発

安全・安心を求める消費者ニーズに対応し、環境に配慮した方法で病害虫を防ぐことを目的に、総合的病害虫防除技術（IPM）の開発に取り組んでいます。

また、沖縄県への侵入や定着がみられ、分布拡大等により大きな被害が予想される特殊害虫（果実を加害するミバエ類、カンショを加害するゾウムシ類など）の根絶防除技術の開発に取り組んでいます。



イネヨトウ
(成虫)

交信かく乱剤
(ローファイブ)

合成性フェロモン
封入揮発装置

サトウキビ害虫イネヨトウの
合成性フェロモン剤による交信かく乱



天敵：タバコカスミカメ

天敵：スワルスキー
カブリダニ

害虫：カイガラムシ類

発病塊根

病原菌の胞子

施設ピーマン・ナス栽培の天敵利用における
カイガラムシ類の顕在化と防除技術の開発

サツマイモ基腐病の総合的
防除技術の開発



マンゴー炭疽病

葉濡れセンサーの測定

センサーデータとIoTを活用した感染リスク
予測によるマンゴー果実病害の防除技術の開発

名護支所 果樹班

● 熱帯果樹分野

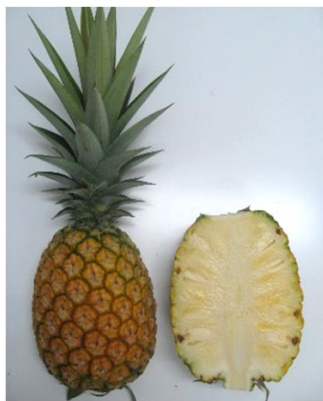
マンゴーを含む熱帯果樹については、高品質安定生産技術の開発を進めるとともに、交配育種により新品種の開発に関する研究を行っています。

● パインアップル分野

パインアップルについては、生食用および各種加工用途に適した新品種の開発やこれら新品種に対応した高品質安定生産技術の開発に関する研究を行っています。

● 温帯果樹分野

シークワサー、タンカン等カンキツ類は有望品種・品目の選定および適正肥培管理、剪定、適期防除等の栽培技術の開発に関する研究を行っています。



パインアップル品種「沖農P17」
(商標名 サンドルチェ®)



マンゴー品種育成



「アーウィン」
安定生産技術の開発



ドラゴンフルーツ品種
「インバクトルビー」



カンキツ有望品種
「津之輝」



アセロラ品種
「レッドジャンボ」



パッションフルーツ品種育成

名護支所 作物園芸班

● サトウキビ分野

本所作物班と連携し、地域特性に適応した品種の育成や適正かつ省力的な肥培管理技術の開発など新たな輪作体系などの栽培技術開発に関する研究を行っています。

● 水田作物分野

水稻については、奨励品種の選定や低コスト・安定生産技術開発に関する研究を行っています。その他水田作物では、水田輪作体系の確立のためタイモ等の栽培技術開発に関する研究を行っています。

● 茶分野

茶については、亜熱帯地域でも安定生産できるチャの品種選定や栽培などの栽培に関する技術開発と平行して、新たな需要が期待される紅茶や釜炒り茶など製茶の技術開発に関する研究を行っています。



サトウキビ試験
(左から「RK97-14」、「NIF8」、「RK10-33」)



水稻品種選抜試験
(左「岩手144号」 右「ミルクィサマー」)



選抜中のインド雑種系統
外部専門家による紅茶官能審査の様子

宮古島支所

サトウキビについては、本所作物班と連携して地域に適応する新品種を育成するとともに、生産現場に対応した安定生産技術や省力化技術の開発に関する研究を行っています。

野菜については、ゴーヤーなどの新品種の育成や高品質な野菜の安定生産技術開発に関する研究を行っています。

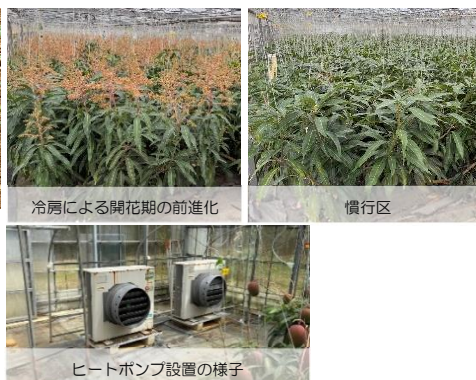
熱帯果樹については、県内一の生産量を誇るマンゴーを中心に、名護支所と連携して、高品質な果実の安定生産技術の開発に関する研究を行っています。



ゴーヤーのうどんこ病抵抗性系統
現地適応性試験



サトウキビ圃場の難防除雑草
カワリバトウダイの防除試験
a カワリバトウダイ

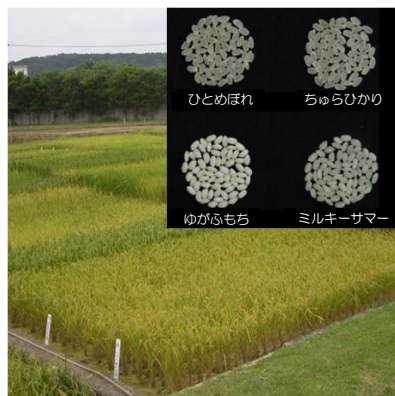


ヒートポンプを用いたマンゴーの生育ステージ
前進化試験

石垣支所

サトウキビについては、地域に適応した品種の育成と生産現場に対応した安定生産技術の開発に関する研究、水稻については、奨励品種の決定に向けた現地適応性試験と品質と食味の向上に向けた安定生産技術の開発に関する研究、小麦では品種選定に関する試験、カンショでは栽培改善と種苗増殖に関する試験研究を行っています。

パインアップルやマンゴー、インドナツメなどの熱帯果樹では、新品種の育成や高品質な果実の安定生産技術の開発に関する研究、オクラでは、施設栽培による安定生産・早期出荷技術に関する研究を行っています。



水稻品種選抜試験



サトウキビ新品種候補
「RK06-6009」



高糖度の生食用パインアップル
「沖農P19」(商標名 ホワイトココ®)



冬春期に収穫できる
有望な園芸品目

配置図

本所	〒901-0336 糸満市字真壁820番地	TEL 098-840-8500
名護支所	〒905-0012 名護市字名護4605-3	TEL 0980-52-2811
宮古島支所	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40	TEL 0980-72-3148
石垣支所	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6	TEL 0980-82-4067



沖縄自動車道許田ICより車で20分



那覇空港より車で30分



石垣空港より車で15分



宮古空港より車で10分

表紙の写真紹介

マンゴー	スプレーギク (シュリカナサ)	ゴーヤー (沖農G7)
カンショ (紅つよし®)	パインアップル (サンドルチェ®)	サトウキビ
水稻 (ミルキーサーマー)	ヘチマ (美らへちま®)	トルコギキョウ

沖縄県農業研究センター

代表メール xx049400@pref.okinawa.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.okinawa.lg.jp/shigoto/kenkyu/1010703/index.html>

令和7年4月1日 現在